

図1 事故件数の年度別推移

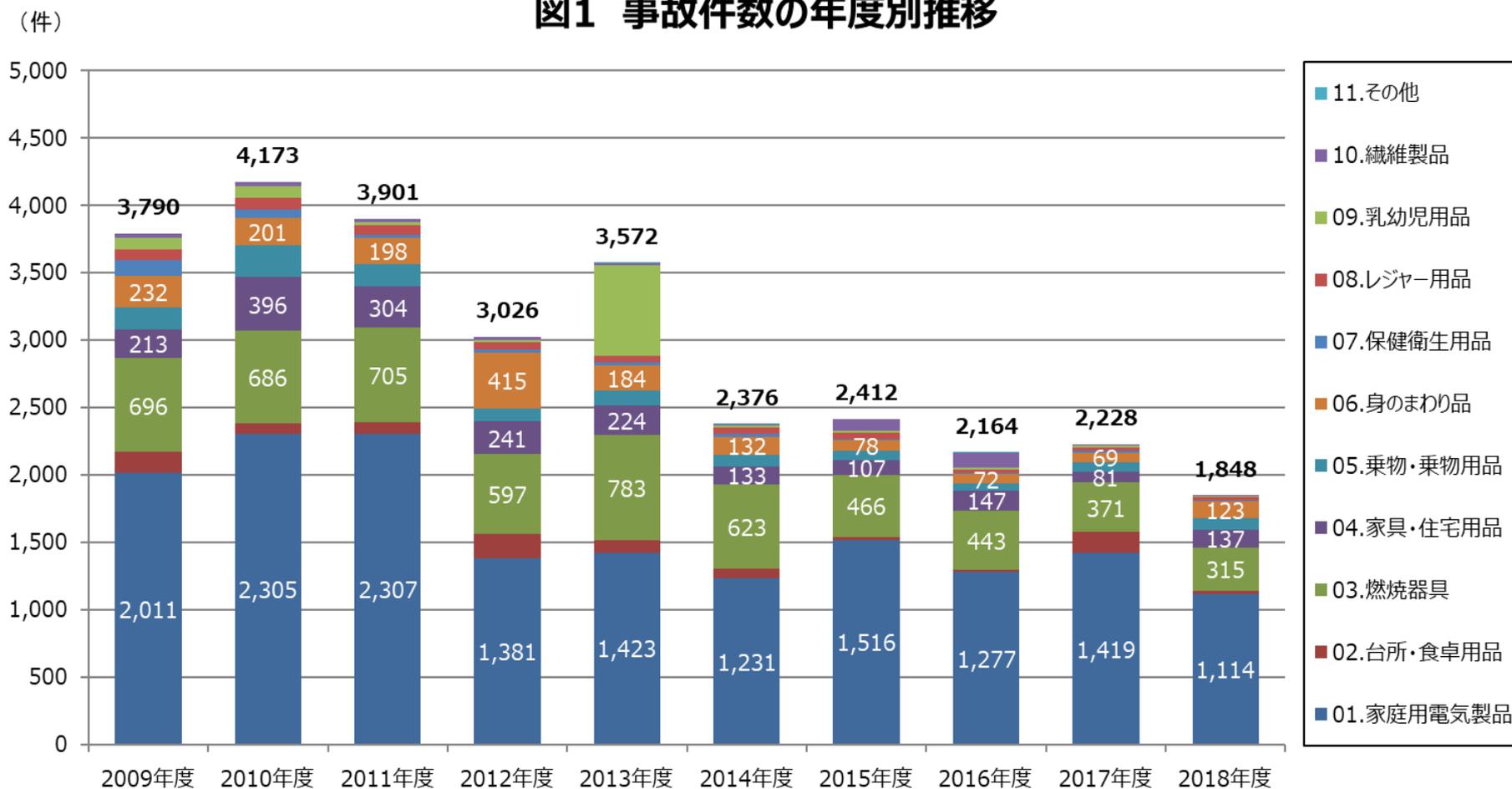


表2 製品区分別被害状況

2018年度
(件)

製品区分	被害状況			人的被害が発生した事故									物的被害が発生した事故			被害なし					
	合計			死亡			重傷			軽傷			拡大被害						製品破損		
01.家庭用電気製品	1,114	1,419	1,277	18	22	18	23	26	20	56	98	65	484	511	499	485	754	667	48	8	8
02.台所・食卓用品	27	154	16	0	0	0	0	2	3	8	9	7	14	0	1	5	143	4	0	0	1
03.燃焼器具	315	371	443	11	15	15	6	8	7	30	37	47	148	149	132	112	155	231	8	7	11
04.家具・住宅用品	137	81	147	5	6	3	34	25	30	46	32	51	8	0	5	44	12	57	0	6	1
05.乗物・乗物用品	84	67	50	5	3	1	37	30	17	14	16	18	5	7	7	23	11	6	0	0	1
06.身のまわり品	123	69	72	0	0	1	15	13	8	24	16	23	48	29	28	29	11	12	7	0	0
07.保健衛生用品	8	15	9	1	0	0	2	1	1	2	14	8	0	0	0	0	0	0	3	0	0
08.レジャー用品	23	23	25	0	0	0	7	1	4	9	8	14	5	4	2	2	10	5	0	0	0
09.乳幼児用品	13	21	13	2	1	0	2	3	4	7	3	4	0	0	0	0	14	2	2	0	3
10.繊維製品	4	8	111	0	0	0	1	1	3	2	5	90	1	0	0	0	1	17	0	1	1
11.その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,848	2,228	2,164	42	47	38	127	110	97	198	238	328	713	700	674	700	1,111	1,001	68	22	26

(注)

- 被害状況については、製品の問題の有無を問わずに見た件数である。
- 重傷とは、全治1カ月以上のけがを言う。
- 拡大被害は、製品以外に他の物的被害に及んだものを言う。
- 各欄内の数値は(2018年度、平成2017年度(青)、平成2016年度(緑))に収集した事故情報の調査結果に基づき製品区分別の被害状況を集計したものである。

表3 製品区分別事故原因

2018年度
(件)

事故原因 製品区分	調査が終了したもの												調査が終了したもの 小計	H: 調査中のもの	合計																					
	非重大製品事故																																			
	製品に起因する事故						製品に起因しない事故			原因不明																										
	A: 専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの	B: 製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの	C: 製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの	D: 業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの	E: 専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの	F: その他製品に起因しないもの	G1、G2: 原因不明、調査不能のもの																												
01.家庭用電気製品	158	362	367	240	602	513	4	3	2	13	12	9	73	70	45	5	13	21	22	62	70	22	55	118	79	116	118	616	1,295	1,263	498	124	14	1,114	1,419	1,277
02.台所・食卓用品	0	2	1	8	10	3	0	0	1	0	0	0	0	136	1	0	0	0	1	0	3	0	0	2	4	6	5	13	154	16	14	0	0	27	154	16
03.燃焼器具	50	74	83	5	5	15	1	0	1	3	11	21	0	6	8	8	9	7	43	96	104	9	46	72	63	95	132	182	342	443	133	29	0	315	371	443
04.家具・住宅用品	11	12	12	33	16	13	0	7	2	0	0	0	0	1	1	2	1	4	14	19	22	0	6	11	16	11	82	76	73	147	61	8	0	137	81	147
05.乗物・乗物用品	7	24	13	3	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	3	1	12	9	10	18	14	21	58	49	63	9	1	84	67	50
06.身のまわり品	10	7	16	15	5	17	0	0	2	0	0	0	20	10	5	0	0	0	1	8	3	6	11	10	18	19	19	70	60	72	53	9	0	123	69	72
07.保健衛生用品	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	4	0	5	2	0	14	9	8	1	0	8	15	9
08.レジャー用品	3	1	4	2	7	10	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3	0	3	3	6	7	3	13	22	25	10	1	0	23	23	25
09.乳幼児用品	0	2	2	1	15	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	2	0	6	2	1	8	21	13	5	0	0	13	21	13
10.繊維製品	0	0	2	0	5	106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2	2	8	111	2	0	0	4	8	111
11.その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	239	484	501	307	669	691	6	12	11	16	23	30	93	224	61	15	23	33	83	188	213	39	143	230	203	281	379	1,001	2,047	2,149	847	181	15	1,848	2,228	2,164

(注)

- 各欄内の数値は(2018年度、2017年度(青)、2016年度(緑))に収集した事故情報の調査結果に基づき製品区分別の事故原因を集計したものである。
- 重大製品事故とは、経済産業省及び消費者庁に報告された重大製品事故情報のうち、経済産業省及び消費者庁が製品に起因する事故及び原因不明であると判断したものである。

表4 事故原因区分別被害状況

2018年度
(件)

事故原因区分	被害状況 合計	人的被害が発生した事故			物的被害が発生した事故		被害なし
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	
重大製品事故	239 484 501	2 9 13	28 43 38	5 25 19	126 279 267	77 128 164	1 0 0
A : 専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの	307 669 691	1 0 0	0 0 0	25 56 126	20 34 63	237 574 487	24 5 15
B : 製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの	6 12 11	0 0 0	0 0 1	2 7 7	0 0 1	4 5 2	0 0 0
C : 製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの	16 23 30	0 0 0	0 0 0	0 1 1	6 3 9	9 19 20	1 0 0
G3 : 製品起因であるが、その原因が不明のもの	93 224 61	0 0 0	0 0 0	4 5 4	31 49 23	58 170 34	0 0 0
D : 業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの	15 23 33	0 0 0	0 1 3	5 3 4	7 9 14	3 9 12	0 1 0
E : 専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの	83 188 213	0 6 8	0 10 15	24 35 51	32 93 83	27 37 51	0 7 5
F : その他製品に起因しないと考えられるもの	39 143 230	0 10 11	1 27 35	8 23 27	23 55 106	7 27 50	0 1 1
G1、G2 : 原因不明、調査不能のもの	203 281 379	10 12 5	0 3 4	59 72 88	58 74 97	68 113 180	8 7 5
調査が終了したもの 小計	1,001 2,047 2,149	13 37 37	29 84 96	132 227 327	303 596 663	490 1,082 1,000	34 21 26
H : 調査中のもの	847 181 15	29 10 1	98 26 1	66 11 1	410 104 11	210 29 1	34 1 0
合計	1,848 2,228 2,164	42 47 38	127 110 97	198 238 328	713 700 674	700 1,111 1,001	68 22 26

(注)

- 各欄内の数値は(2018年度、2017年度(青)、2016年度(緑))に収集した事故情報の調査結果に基づき事故原因区分別の被害状況を集計したものである。
- 重大製品事故とは、経済産業省及び消費者庁に報告された重大製品事故情報のうち、経済産業省及び消費者庁が製品に起因する事故及び原因不明であると判断したものである。

表5 製品区分別再発防止措置等の実施状況

2018年度

(件)

(製品に起因する非重大製品事故)

製品区分	再発防止措置の実施状況			製品の交換、部品の交換、安全点検等を行ったもの	製品の製造、販売又は輸入を中止したもの	製品の改良、製造工程の改善、品質管理の強化等を行ったもの	表示の改善、取扱説明書の見直し等を行ったもの	政府、団体、事業者等の広報等により消費者に注意を喚起したもの	被害者への措置、損害賠償、製品交換等、個別的な措置												
	措置実施件数																				
01.家庭用電気製品	263	550	478	154	386	386	10	26	12	134	290	104	18	8	6	195	500	418	183	546	413
02.台所・食卓用品	8	146	5	4	8	1	2	0	1	8	2	4	1	2	4	1	0	2	8	12	3
03.燃焼器具	7	12	25	5	7	21	0	0	0	6	4	5	0	0	1	16	25	56	19	63	73
04.家具・住宅用品	32	24	14	32	11	13	61	3	6	3	14	4	4	7	2	27	6	67	26	11	23
05.乗物・乗物用品	3	2	8	1	2	4	0	1	1	3	2	4	0	0	5	3	2	4	4	10	6
06.身のまわり品	25	8	20	6	5	6	5	0	3	10	9	24	0	2	10	6	4	8	6	7	14
07.保健衛生用品	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
08.レジャー用品	3	9	11	0	5	1	0	6	2	3	11	11	6	9	5	0	6	3	2	8	9
09.乳幼児用品	1	15	2	1	14	2	0	0	0	0	15	1	1	0	0	1	0	2	1	1	3
10.繊維製品	0	5	106	0	3	106	0	1	31	0	3	32	0	0	0	0	3	106	0	4	105
11.その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	342	772	669	203	441	540	78	38	56	167	351	189	30	28	33	249	546	666	249	663	649

(注)

1. 収集された事故に関して複数の措置が取られたものは、措置ごとに集計した。
2. 各欄内の数値は(2018年度、2017年度(青)、2016年度(緑))に収集した事故情報の調査結果に基づき製品区分別の再発防止措置等の実施状況を集計したものである。
3. 個別措置のみのものを除く。